

『外来生物の再利用～ 駆除対象生物を「商品化」して被害にあっている地域に新しいビジネスを作る』

株式会社 Do.ベガ HOME
代表取締役社長 西村純代
<http://rerelabo.com/>

弊社は 2016 年 10 月より、「しが新事業応援ファンド」を活用して琵琶湖の「ニゴイ」と「米糠」を合わせた飼料の開発を行っていました。

「ニゴイ」は小骨が多く、食には適さない為、リリースする魚です。その「ニゴイ」を水揚げしたまま粉碎機に入れ「米糠」と合わせて 3 時間で飼料にして、漁協の新しい収入源となるビジネスを提案しようと試みたところ、春先になり魚を仕掛けた網に 50 匹近い「ミシシippアカミミガメ(ミドリガメ)」が入り、本来捕獲すべき魚が獲れない現状を知る事となりました。



ミシシippアカミミガメとは

北米原産の外来種で日本固有種のイシガメに比べ一度に 2 倍の量の卵を産むなど、繁殖率も高く体もひと回り大きい為、イシガメの餌や生息場所を奪うなど生態系に大きな被害をもたらしている。その被害は、滋賀県だけでなく全国各地で水生食物が消失したり、レンコンの新芽を咬む事で生育不良が深刻化している。

2015 年 7 月 29 日に環境省及び農林水産省で作成した「生態系被害防止外来種リスト」においても「緊急対策外来種」に位置づけられた。

弊社はこの「ミシシippアカミミガメ」を駆除し「産業廃棄物」として処分するのではなく、「有価物」としての商品化を考えている。弊社所有の粉碎機では、20 cm までの亀は粉碎が可能であったが 40 cm の亀は粉碎が出来なかった。現状の粉碎機を改良し、亀の粉碎が 3 時間で可能になれば、土壌改良材や飼料としての「商品化」が可能となる。おそらく今後は、全国の自治体が「捕獲」をしていくと考えられるので、実際に被害に合われている地域で、「商品化」するシステムをつくり新しい収入源となるビジネスを提案していく。